



三月(大) 弥生 張宿

三月五日啓蟄の節より
月命辛卯四緑木星の月
暗剣殺東南方

旧正月小
大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	満潮	干潮
1日	月	つちのえさる	九紫	春の全国火災予防運動(7日迄)、奈良東大寺二月堂修二会、旧正月小	十八	赤口	やぶる	畢	十し	6.11 17.36	19.46 7.28	6.28 18.18
2日	火	つちのととり	一白	不成就日	十九	先勝	あやぶ	背	十し	6.10 17.37	20.56 8.00	6.53 19.02
3日	水	かえいぬ	二黒	ひな祭、旧二十日正月、耳の日、新潟浦佐押合祭	廿	友引	なる	参	●	6.09 17.38	7.19 19.50	7.19 19.02
4日	木	かのと	三碧	三隣亡	廿一	先負	おさん	井	百事よし	6.07 17.39	7.44 20.46	7.19 19.50
5日	金	みづのえね	四緑	啓蟄一七時五四分、八せん始め	廿二	佛滅	おさん	鬼	天おん	6.06 17.40	8.09 22.02	2.26 15.09
6日	土	みづのとうし	五黄	●下弦一〇時三〇分	廿三	大安	ひらく	柳	天おん	6.05 17.41	8.38	2.58 16.23
7日	日	きのえとら	六白	消防記念日、三隣亡、一粒万倍日	廿四	赤口	とづ	星	月とく	6.03 17.41	9.15	3.54 18.17
8日	月	きのと	七赤	国際婦人デー	廿五	先勝	たつ	張	く亥日	6.02 17.42	3.17 10.34	6.58 19.54
9日	火	ひのえとら	八白	茨城鹿島神宮祭頭祭	廿六	友引	のぞく	翼	●	6.01 17.43	3.33 13.21	8.49 20.59
10日	水	ひのと	九紫	塩竈神社帆手祭、不成就日	廿七	先負	みつ	軫	十し	5.59 17.44	4.21 14.25	9.38 21.49
11日	木	つちのえつま	一白		廿八	佛滅	たいら	角	神よし	5.58 17.45	4.18 14.59	10.14 22.29
12日	金	つちのひびじ	二黒	奈良東大寺二月堂お水取り	廿九	大安	さだん	亢	神よし	5.56 17.46	5.05 16.23	10.46 23.04
13日	土	かえさる	三碧	●朔一九時二一分、奈良春日大社祭、近江八幡左義長祭、庚申、旧二月大	朔	友引	とる	氏	大みやう	5.55 17.47	5.27 16.57	11.16 23.34
14日	日	かのと	四緑	二日灸、一粒万倍日、不成就日	二	先負	やぶる	房	大みやう	5.54 17.48	5.48 17.30	11.46

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある月で気温だけでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやってくる、と言ひ伝えられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上の節句」といっても「巳の節句」といっても、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようにならないうつたの形式になったのは近年になってからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といい、雛人形を飾ってその子の将来を祝う。内裏雛(だいりひな)が、雛人形の典型になったのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るように願う心の現れである。

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	満潮	干潮
15日	月	みづのえいぬ	五黄	京都嵯峨釈迦堂お松明	三	佛滅	あやぶ	心		5.52 17.48	6.26 18.02	0.02 12.14
16日	火	みづのと	六白	西宮広田神社例祭、八せん終り、鹿兒島霧島神宮お田植祭	四	大安	なる	尾	母倉	5.51 17.49	6.26 18.35	0.28 12.42
17日	水	きのえね	七赤	彼岸入り、甲子	五	赤口	おさん	箕	百事よし	5.49 17.50	6.45 19.11	0.51 13.10
18日	木	きのと	八白	石川氣多大社お水取り(祭23日迄)	六	先勝	ひらく	斗	天おん	5.48 17.51	7.04 19.49	1.14 13.39
19日	金	ひのえとら	九紫	三隣亡、一粒万倍日	七	友引	とづ	牛	天おん	5.46 17.52	7.22 20.18	1.34 14.11
20日	土	つちのえつま	一白	【春分の日、春分一八時三七分、彼岸中日、上野動物園開園記念日、旧こと始め、旧針供養】	八	先負	たつ	女	天おん	5.45 17.53	7.22 20.18	1.54 14.51
21日	日	つちのえつま	二黒	●上弦二二時四〇分、社日	九	佛滅	のぞく	虚	●	5.44 17.53	7.44 21.31	2.11 15.55
22日	月	つちのと	三碧	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式、己巳、不成就日	十	大安	みつ	危	十し	5.42 17.54	8.30	2.18 17.45
23日	火	かえうま	四緑	彼岸明け、旧初午、世界気象デー、宮城岩沼竹駒神社初午祭、大つち	十一	赤口	たいら	室	大くわ	5.41 17.55	8.32 23.06	2.18 17.45
24日	水	かのと	五黄		十二	先勝	さだん	壁	大みやう	5.39 17.56	8.32 23.06	2.18 17.45
25日	木	みづのえさる	六白	奈良薬師寺花会式(31日迄)、電気記念日	十三	友引	とる	奎	神よし	5.38 17.57	8.32 23.06	2.18 17.45
26日	金	みづのと	七赤	一粒万倍日	十四	先負	やぶる	婁	大みやう	5.36 17.58	8.32 23.06	2.18 17.45
27日	土	きのえいぬ	八白	旧ねはん会、京都表千家利休忌	十五	佛滅	あやぶ	胃	月とく	5.35 17.58	8.32 23.06	2.18 17.45
28日	日	きのと	九紫	東京品川千体荒神大祭、京都裏千家利休忌	十六	大安	なる	昴	母倉	5.34 17.59	8.32 23.06	2.18 17.45
29日	月	ひのえ	一白	●望三時四八分	十七	赤口	おさん	畢	母倉	5.32 18.00	8.32 23.06	2.18 17.45
30日	火	ひのと	二黒	不成就日	十八	先勝	ひらく	觜	大みやう	5.31 18.01	8.32 23.06	2.18 17.45
31日	水	つちのえとら	三碧	天しゃ、小つち、三隣亡、一粒万倍日	十九	友引	とづ	参	よろづ	5.29 18.02	8.32 23.06	2.18 17.45

【誓】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジュールが完全にうまってしまうという。誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心にして近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心にした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があるという仏教の教えから無欲悟道の彼岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどをされる。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持を行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられているのが固有の重要な行事である。

春分、秋分に最も近いつちのえの日を「社日」といひ、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち、土の神の意味である。